

# 親切とお節介の境界探索

## —親切と思う範囲で励ます方法の提案—

情報メディア学科 大島 直樹ゼミ

1022072

伊藤 元気

### 1 はじめに

励ますという行為には、相手の士気を高める、不安を低減させる等の正の効果があるとされ親切と認識される。しかし、一方で負の効果を与えることもあり、この場合はお節介と認識される。このような問題が発生する理由として、親切とお節介の境界はとても曖昧であり、その決定は親切の受容者に委ねられるからである。そこで、励ましに関してこの境界を探索することで、効果的に相手を励ますことができると考えた。

本研究の目的は、親切とお節介の境界が変化する要因を明らかにし、受容者が親切と思う範囲で励ます方法を提案する。今回は、大学生の子と親を対象にし、親が子を励ますという場合を想定し研究に取り組んだ。

### 2 親切とお節介とは

#### 2.1 親切と援助行動

親切は援助行動の一部であり、ちょっとした思いやりや親切心を動機とした小規模な援助行動である[1]。援助行動とは、外的な報酬や返礼を目的とせず、自発的に行われた、被援助者に利益をもたらす行動とされている[2]。さらに、援助行動には適切な援助と不適切な援助があるとされる[3]。

#### 2.2 親切とお節介の定義

親切とは、援助者が被援助者へのちょっと

した思いやりを動機とし、被援助者に利益をもたらす援助行動である。お節介とは、被援助者の求める動機や目的と違い、被援助者にとって不利益になってしまう援助行動である。

以上がこれまでの援助行動研究で明らかにされていることだが、本研究では、動機や目的が適正で被援助者にとって必要な援助行動でも、適切な範囲があると仮定した。

### 3 親切とお節介の境界探索

#### 3.1 調査方法

親切かお節介かの判断の要因は、励まし方と伴う伝達手段が関わっていると仮定し、アンケート調査を行った。想定する励まし方として「頑張れ!」「きっと成功する」「失敗してもいい」の3つを用意し、それらが利益になると答えれば親切、不利益になると答えればお節介として、5段階で評価させた。また、励ましを伝達する手段による違いを、直接、電話、メールで励まされた場合の感じ方をそれぞれ答えさせた。

#### 3.2 調査結果と考察

アンケートは12月12日から15日の間に実施し、14人から回答を得た。

励ましが利益になると答えた人は、「失敗しても大丈夫」「きっと成功するといわれる」「頑張れといわれる」の順で多かった(表1)。この結果から、活動を強制する面を持つ励ま

し方がお節介になりやすいと考察した。

表 1 各点数別での人数

	5点	4点	3点	2点	1点
頑張れ!	0人	4人	6人	3人	1人
きっと成功する	3人	2人	6人	3人	0人
失敗してもいい	5人	4人	3人	1人	1人

また、伝達手段での違いは、直接、メール、電話の順で、それぞれの平均点数が高くなる傾向が見られた(表2)。これについて、気持ちが伝わりやすければ親切に、返事や反応を要求されればお節介に近づくと考察した。

表 2 伝達手段での平均点数

	直接	電話	メール
頑張れ!	2.93	2.86	2.93
きっと成功する	3.36	3.14	3.43
失敗してもいい	3.79	3.71	3.71

## 4 作品制作

### 4.1 親切とお節介の境界を表現するアプリ

子自身が持つ曖昧な境界を、子自身が感覚的に表現し、親子間でその境界を共有するアプリを制作した(図1)。励まし方の強制度と気持ちの伝わりやすさ、反応の要求度を尺度とし、どのような励まし方を望むかを子が感覚的に表現し、親にリアルタイムで発信する。その情報を受け取った親自身が、子をどう励ますか考える判断材料とできる。

### 4.2 検証

制作したアプリの有用性に関して、大学生10人を二人一組とした5組に実際に使用させ、アンケート調査を行った。自身の親切とお節介の境界を表現できたか、組になった相手が表現した境界を見て、相手に対してどう励ますかわかるかをyesかnoで答えさせた。結果、約7人がうまく表現できたと答え、9人が相

手に対する接し方が分かったと答えた。この結果から、アプリの有用性を証明できたといえ、人が親切と思う範囲で人を励ますことが可能であるといえる。

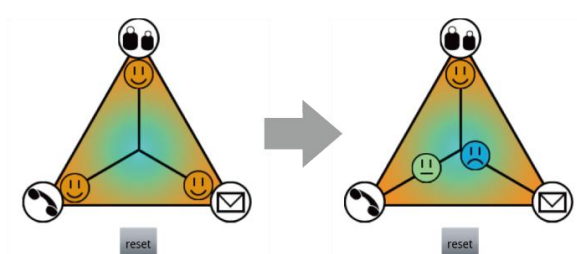


図 1 アプリの画面 (表現前と表現後)

## 5 まとめ

本研究では、親切とお節介の境界が変化する要因を、励ましが持つ強制度と、伝達手段が持つ気持ちの伝わりやすさ、反応の要求度が関わっていることを明らかにした。これらを尺度として、被援助者が親切とお節介の境界を表現し、援助者と共有することで、被援助者が親切と思う範囲で援助行動を行う方法を提案できた。

## 参考文献

- [1] 今西由紀, 主観的幸福観が「小さな親切行動」に及ぼす影響について, <http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~tsuchida/thesis09/imanishi.pdf>, 参照, dec18, 2013
- [2] 松井豊, 浦光博, 対人行動研究シリーズ 7 人を支える心の科学, 誠信書房, 東京, 1998
- [3] 松浦均, 『援助行動研究の動向-不適切援助行動という視点から, [http://psy.isc.chubu.ac.jp/colloquium/no2\\_matsuura/no2matsuura.htm](http://psy.isc.chubu.ac.jp/colloquium/no2_matsuura/no2matsuura.htm), 参照Dec 3, 2013